

## エシカル・プロジェクト レポート

# Slow & Flow 名古屋発、自然体のエシカル・コーディネーター



### 原田さとみ 氏

タレント／エシカル・コーディネーター／  
「エシカル・ベネローブ株式会社」代表取締役

1967年、愛知県生まれ  
1987年、モデルデビュー後、テレビ番組出演を期に、タレント活動開始。  
1996年、パリ留学。  
1999年、セレクトショップ「ベネローブ・パリ・ペティヨン」をオープン。以後10年間経営。  
2005年、5年間の休業を経て、タレント活動を再スタート。  
現在は、おしゃべり・講演・絵本の読み聞かせ・司会・執筆などの活動のほか、エシカル・コーディネーターとして、エコロジカルで人道的なエシカル・ファッションの普及活動を中心に、フェアトレード推進などにも取り組んでいる。

#### ■インタビューー

エシカル・プロジェクト 松本 涼子

## セレクトショップ経営から、 エシカル・コーディネーターへ

**松本** 2010年7月1日に設立された「エシカル・ベネローブ株式会社」について、経緯をお聞かせください。

**原田さとみ氏**（以下、敬称略） 1999年から10年間「ベネローブ・パリ・ペティヨン」というセレクトショップを経営していました（2009年7月31日に閉店）。それまでの私はモデル・タレントとしてテレビやイベントに出演したり、ラジオでおしゃべりしたり、広告のモデルになったりといった活動が中心でしたが、“お店”という空間で、自分の好きなファッションという分野での表現も、一つの自分の表現なのでは？と思い、セレクトショップという形に行き着きました。

いつも買い付けに行くパリで4年前、新しく開催された展示会「エシカル・ファッションショー」（注1）に買い付けに行ったんです。そこでは環境に配慮した、モラルある商品作りをしている「エシカル・ファッション」というコンセプトの服や下着、靴、バッグやアクセサリに出会うことができました。私が探していたファッションの流れがあることに感激しました。そもそも、その2年くらい前から、お店にはフェアトレード商品を入れていたんです。「ウチのようなセレクトショップでも、チョコレートなどのフェアトレード商品を置いてもいいんじゃないか」と思ってお店に導入してみたら、お客様の反応や意識が思いのほか高く。もともと流行のものを扱うというよりも、本当に自分の欲しいものがわかっている人たち、意識の高い大人の人のためのセレクトショップだったので、「ああ、やっぱりちゃんとした意味のあるものを置けば、理解していただき、ちゃんと売れるんだなあ」ということを実感しました。数万円のお洋服の中に300円のチョコレートっていうバランスがよかったのかもしれない。一般では少し高めのチョコレートでも、この中では安く感じますよね。

それから、徐々にお洋服までフェアトレード&エシカルなものに変えていこうと商品を探していた時に「エシカル・ファッションショー」に出会ったんです。新しくエシカルを始めたという感覚ではなくて、もともとお店自体がエシカルな要素を持っていたんだと思います。今までパリで買い付けていたデザイナーたちに対しても、オーガニックな素材であるかはさておき、作る人の顔が見られるやりとりをしていましたから、やり方はもともとエシカルだったのですね。それに小さなセレクトショップでしたから、数は多くないけれど良質なものを仕入れたくて、少しずつでも注文できるデザイナーさんとの取引が中心となっていました。お店で売りさばける分を継続的に仕入れることができるよう、無駄のないようオーダーして作ってもらっていました。ものが残るといっても、売側側の責任と





して考えたいと思っていましたし、仕入れたものはちゃんとお嫁(お客様のところ)に行って幸せになって欲しいという感覚があったんですね。ですから、もともとお店自体が持っていた要素に、さらに“人道的なモラルを持ったファッション”という「エシカル・ファッション」というタイトルを得て、より動きやすくなったと感じています。

では、なぜ10年でお店を閉めたのか。ファッション性という観点から見て、フェアトレードの商品は成長中で、ファッション性を重視しているプロの製品はまだまだ少なく、洗練されていません。それに、リサイクルされたものを使って作る商品は生産が安定しないため、オーダーがしにくいこともあります。モードとして展開するには、これから改善すべき点はたくさんあるでしょう。

本来、生産まですべて現地で行うフェアトレードが理想ですが、商品のデザイン性という意味では、今は理想でしかありません。そのため今はまだ完璧なフェアトレードではなくても、たとえば原料・素材・生地は途上国のもので、デザイナー・縫製は専門技術のある先進国の人で、といった柔軟さがあっていいと思います。それがもっと身近に、みなさんの手の届くところに存在できるのがエシカルだと考えているんです。フェアトレードの、一歩手前のところに。そうしたことから、世の中がエシカルな方向へ向かうように、「これは世の中にいいことで、楽しくて、おしゃれで、カッコいいことなんですよ」って推進するのが私の使命なのかなって感じ始めました。それが、私がお店をいったん閉めた理由かな。お店を閉めたことで、モノを売る立場からエシカルの啓蒙活動ができる立場に変わりました。エシカルやフェアトレードの推進活動を通じて、買う人を増やすと同時に、作る人・売る人の数を増やし、商品としてのクオリティーもよくなっていくことが大事と感じています。これを同時に進めないと、よい経済循環が生まれないのではないのでしょうか。

**松本** なるほど。それで、エシカル・コーディネーターとしての仕事を始められたんですね。

**原田** そうです。お店の再開の目標は2012年です。だから私に今できることは、エシカルな環境を整えることです。

現在は、デザイナーとお店をつなげたり、企業と人をつなげたりする活動をしています。といってもまだお仕事としてというよりボランティアなんですけどね(笑)。持続可能な活動ができるよう、「エシカル・ベネロープ株式会社」としましたが、長年所属していたモデル事務所を辞めて独立したので個人の事務所にしたということでもあり、それと、エシカル・コーディネーターとしての活動をミックスした会社になりました。エシカルやフェアトレードのファッションショー・イベントなどの企画・運営などの場合には会社でなければできないお仕事もありますので、一応形としては株式会社なのですが、気持ちの

面でも利益の面でもNPO的ですよ(笑)。

10年間お店を背負うというのは、やはり大変でした。またそのうち背負うんですけど、これからはその背負い方を少し変えると思います。たとえば、ある企業から「何か世の中の役に立つことでビジネスにつなげたい」という話をいただければ、私はそれをエシカルやフェア



トレードにおつなぎしようと思っています。自分一人でお店をやっても限られた範囲ですが、大きな企業がお店を出すのであれば、さらに大きな範囲でフェアトレードやエシカルを広げられる可能性があります。大企業がフェアトレードのお店を立ち上げれば、おのずとフェアトレードのお洋服や商品を買う人が増えますよね。そうすることによって途上国の人たちに仕事が増え、それが生活を支え、貧困が確実に減ると信じています。フェアトレードと現地の経済は直結していますから。

「フェアトレード」という言葉も、さらには「エシカル」となるのもっとわかりにくい言葉ですよ。私たちの暮らしや普段の何気ない行動すべては、世界のいろんなところとつながっていますが、その行動によって誰かが犠牲になっていたり、悲しい思いをしていたりしたら…?と考えたら、私たちは軽率なことではできなくなります。自分たちの暮らしを考えるように、遠く離れていても作っている人たちのことを考え、思いやってみる。他人事ではなく、自分事と考え行動する。それが「フェアトレード」であり、「エシカル」であって、そんなに難しいことではありません。もっともっと社会に浸透させていけるよう、わかりやすく、そして入りやすく説明しなければならんと思っています。フェアトレードの商品を購入することによって、寄付ではなく、現地の生産者の方々と対等にモノづくりを考え、または彼らは誇りを持って生産に携わることができま。また自分たちの作ったモノが地球の裏側の私たちのところへ来ていて、こんなに喜ばれているんだってことを伝えることで、社会の歪(ひず)みの中にあった彼らの生活が向上し、それが持続的に守られてゆく、というのがフェアトレードであり、エシカルです。だから協賛していただく企業の方へお願いしているのは、「お試し」ではなく「続けて下さい」ということなんです。続けることが現地の方々への本当の思いやりだと思うんです。そして「こちらの国では、こういうものが欲しいとされていますよ。こうした方が、売れますよ」と改善策をアド





バイスし、いいモノづくりを応援することは、持続可能を願う「思いやり」の気持ちからと私は、思っています。ひとことでエシカルってなんですかと聞かれたら私は、「エシカル」=「思いやり」だと答えます。

### 「これからのフェアトレード」のための、 エシカル・ファッションショー

**松本** エシカル・コーディネーターとしていろいろな活動をされていますが、今一番力を入れているのはどんなことでしょうか？

**原田** フェアトレード&エシカルのお洋服で、ファッションショーを企画プロデュースしています。2009年11月に、私がサポーターを務める国際協力機構（JICA）中部で、初のフェアトレード&エシカル・ファッションショーを行ったのをきっかけに、今年5月8日の世界フェアトレードデーには、名古屋市栄の街中の会場でファッションショーを開催しました。たいへん多くの方々が集まり、名古屋でのフェアトレードの感心の高さを感じたと同時に、ファッションショーのようなイベント性の高い演出をすれば、フェアトレードを知らない方々も興味を持って集ってくださり、知っていただくチャンスとなることを実感しました。モデルであり、ファッションの分野に携わってきた私ができる表現でフェアトレードの魅力を伝えることができるのなら、と自分の得意な分野から始めたのです。これまでお店でオリジナルのお洋服のコレクションを年2回、シーズンごとに、ファッションショーで発表していました。ステージだけでなく、和庭園や長屋通りでファッションショーをするなど、これまでいろいろな趣向を凝らしてきましたので、ショーは得意分野です。協力してくれるそれぞれのプロの仲

間もいますから、心強いですね。

次のショーでは、私が輸入している「エシカル・ベネロープ」のエシカル・ファッションを中心にしながら、いつも衣装協力をしていただいているフェアトレードのファッションブランドで、日本でのパイオニア的存在「ピープル・ツリー」(注2)の新作をご紹介します。さらには、アフリカのフェアトレードの生地を使って、以前私のお店のオリジナルを作ってくれていたデザイナーによってクリエイトするスペシャルなお洋服

で、ハイセンスなショーを演出しています。“おしゃれに、楽しく、かっこいい”ファッションショーとなり、観ている皆さんに夢を見ていただけるといいなって思っています。そして「かわいいなあ」「欲しいなあ」と思ってくれるところからのスタートで、「フェアトレードって、こんなにおしゃれでかっこいいことなんだ」と、広く多くの皆さんに気づいて欲しいんです。

私たちの扱っているエシカル商品は、フェアトレードの面で見ると完璧ではありません。エシカルは、途上国に限らず、人にも地球にも優しい思いやった方法で生産されているものであれば、それ以外の国からでもありだと思います。世の中には、途上国だけでなく先進国でも、社会の歪みの中で苦しんでいる人はたくさんいます。エシカルは範囲をもう少し広げて、今の世の中にあった方法として、日本国内・先進国内からの貿易においても、フェアであり、人道的であり、エコロジカルであることを大切にします。そしてさらに大事なのが、デザイン性、クリエイティブ性。消費者の裾野を広げるためには、これは大事な要素だと思っています。

エシカルとは、エコロジカルで安全な素材・染料を使用しているか、正しい労働環境が守られ公正な賃金で生産・発注がされているか、地域に伝わる製法や伝統技術を後世に残す努力をしているか、といった条件をクリアして作られたもののことをいいます。モラルを守り、メッセージを持ったこれらの商品を一人でも多くへ届けるためには、さらにデザインも質も確かであることが必要で、これがもう一つの大きな条件です。見た目のデザイン性に魅かれ選んだモノの、その背景が公正であり、正直であり、生産者にも地球環境にも優しいものであれば、未来はよい方向へ進むのではないのでしょうか。モノをつくり売る側の責任は大きいと感じています。

そしてこれらの商品は、ただ単に着る使うなどのモノとしての側面だけではなく、モノ自体に多くのメッセージを持ってい





ます。どのような人々が、どのような思いで作っているのか、そして私たちがこれらの商品を選ぶことで、世の中がどのように変わって行くのか。世界とどのようにつながっているのか…、ということに気付かされるでしょう。

フェアトレードやエシカル商品を購入・使用することで、まずは自分自身の意識が高まり、地球環境に優しい行動を誘発し、周りにも影響を与えるでしょう。正しき商品を「選ぶ」という一人ひとりの小さな行為が、大きな活動へとつながる可能性を秘めています。“ほんとうの上質で心豊かな暮らし”って?と考えるきっかけとなってほしいのです。「買う」ものを「選択」することではじまる未来があると、私は信じています。

「これまでのフェアトレード」から、「これからのフェアトレード」へと向かうためには、消費者のニーズにあったモノを作らなければならないとも考えています。私はセレクトショップ経営という少し違った分野からの視点で、フェアトレード推進のお役に立てたらと思っています。フェアトレードの商品を「デザインはいまいちだけれど、途上国の協力なんだから買ってあげる」というのはもう過去のこと。これからのフェアトレードはデザインも質も向上し、説明しなくてもモノのデザイン力で売れてゆく時代がやってくると思います。いいモノを作り売っていくこと、それが途上国の人の誇りにつながると私は信じています。

## 地域を考えるプロジェクト、 コップなごや水基金

今、だんだんエシカルの認知度が上がってきていますし、「エシカルってなんだろう」と思うところからムーブメントが起こるのは大事だと思うんですね。

まず皆さんに興味を持っていただくためには、「おしゃれに、楽しく、かっこよく」そして「気持ちいい」も大事な要素だと思っています。私のもう一つの活動である「コップなごや水基金」(注3)もそうなのですが、いいことをするにも楽しくないと続かないし、楽しいことは、自分の人生をも豊かにしてくれると思うんですね。

基本的に人間はみんな“いい人”と私は信じているので、私はそれを行動に移すキッカケを作れたらいいな

と思っています。水基金も皆さんの寄付から温かい気持ちが伝わってきますし、協力してくださっているお店の方々からも「すごく気持ちがいい」と言われますしね。そういった小さくても尊い“いいこと”が連鎖反応していくのが、私の理想です。デートの時とかで彼がこの水基金を見て「ああ、じゃあ置いていこうか」と寄付をしてくれたら、彼に惚れ直しちゃいますよね。ヨーロッパでさり気なくチップを置くような感覚でできたらクールだね、それが自然にムーブメントになって習慣になっちゃったら名古屋の街ってカッコいいよねって、いま盛り上げているところなんです!

**松本** 今お話にあった「コップなごや水基金(=水基金)」についてお聞かせ下さい。どのような経緯でプロジェクトを立ち上げられたのですか?

**原田** 水問題は地球上の重要な課題です。この地球上に住む人の中で8人に1人は、きれいな飲み水を得ることができません。途上国では汚染された水のせいで命を失う人も多くいます。その一方、先進国では国境を越えた水の取り合いで戦争だって起こりかねません。今世界中では水問題・資源問題に危機を感じている有識者たちによって、タップ・ウォーター・プロジェクトがいろんな方法で進められています。「タップ」とは水道の蛇口のこと。このプロジェクトは、ペットボトルのお水をできるだけ飲まずに、水道からのお水を飲みましょう!という運動です。市長が宣言して、街中で水のペットボトル使用をボイコットしている都市もあります。すでに、店頭から水のペットボトルが消えている街もあるのです。

自分の飲んでいるお水が自然からの命の恵であり尊いものだ、そして私たちは奇跡的にいただけているのだということに





気づいたら、感謝の気持ちから何かできないかなと思いました。身近にさり気なく、みんなで水のことを考える機会があるといいなって。それに名古屋の水道水はものすごくおいしいんです。日本で2番目においしいと評価されたこともあります。利き水をしてみるとおもしろいのですが、市販のペットボトルのお水と、名古屋の水道水を飲み比べていただくと、みなさん必ず「水道水の方がおいしい」と評価されます。名古屋のお水ってすごいんです。これはちょっとした自慢ですね。そんな名古屋のお水のこと、もっとみんなで大事にしようってことで、市内のレストラン、カフェ、料亭などの水道からのお水をサービスに出しているお店に協力店となつていただき、水基金を始めました。「うみゃあ」と評判の「名古屋のお水」は、遠く離れた長野県から岐阜県を流れる木曽川が、豊かで清らかでなければなりません。そしてそのためには、流域の市町村、そこで営む人々、森林、山々が元気である必要がある。安全でおいしい名古屋のお水は、木曽川流域のみなさんの知恵と、たゆまぬ努力、そしてやさしさの賜物なんです。

私たちがいつでもいただくことのできるきれいな“お水”。でも地球上で、私たちがおいしいお水をいただけることは奇跡的なことなのですよ。世界では飲み水を得ることができずにたくさんの尊い命が失われています。木曽川の流れは、私たちの命を守ってくれています。そのことに今一度、感謝して、お世話になっている木曽川流域へ思いを馳せて、みなさんに水基金へご協力いただき、基金を使って、山間部と都市部との交流を盛んにして、過疎化や農林業の担い手不足、水源林の荒廃などの課題をともに解決していけたらと思って活動しています。

基金の方法は、レストラン、カフェなどの飲食店で、無料サービスで提供されているコップのお水に対し、お客さまに募金をしていただくというものです。飲食店の各テーブルの上に、「コップなごや水基金」からのメッセージの書かれたカードを置きます。お客様にご賛同していただき、カードの上にお気持ち分だけ、寄付金を置いていただきます。そして、みなさまからの寄付金は、都市部と山間部の人・モノ・コトの交流や森林保護育成援助、間伐材商品開発など、木曽川流域の活性化支援に使わせていただきます。一滴も無駄にしないように、100%が流域である山間部へと届きます。都市部でお金を集めて、山間部で使ってもらうことが基本です。都市部での費用、紙・印刷・ウェブ制作・カードや商品デザイン、すべて皆さんからの無償のご協力で成り立っています。ご理解くださったプロの皆様の温かいご協力の元「コップなごや水基金」は設立できたのですよ。本当にいつも周りの皆様には感謝しています。“世界中すべての人がおいしいお水を飲むことができ、笑顔が増えるように”との願いを込めて、そして“いつもおいしいお水をありがとうございます”という感謝の気持ちです！

現在は市内約30のレストランやカフェに、募金をご協力いただいています。今はまだ私が自分で回れる店舗数ですが、これからお店が増えていくので、お店を回ってくれるメンバーを増やさないといけなくなりますね。

#### 松本 「コップなごや水基金」の成果は？

原田 本当に始まったばかりですが、寄金の利用第1弾は、木曽川流域の中津川市加子母村の間伐材を使って、「コップなごや水基金」のカードを立てるスタンドを作っています。当面は加子母への支援が続くと思いますが、今後の寄金の行き先は、木曽川流域の支援活動をしていらっしゃる先輩方や専門家の方々のお話を聞きながら、必要な時に必要なところへ支援をお届けできるよう丁寧に活動が続けたいと思っています。これは国内フェアトレードといってもいいかもしれません。フェアトレードというと海外からのことですが、国内の上流域で間伐材を購入し、山間部に労働力を生み出し、ヒト・モノ・コトの流れが活発になることは、上流域との「国内フェアトレード」になります。上流域と下流域、山間部と都市部の高低差をなくすということは、途上国と先進国の間の格差をなくすのと似ているところがありますよね。そして、ただ集まったおカネをお渡しするだけじゃなく、お互いに利益のある丁寧なお付き合いを考えています。山間部の間伐材や素材・産品・産物を使い、さらに買う側である都市部の人間は「こんなデザインのモノをほしがっているよ」とアドバイスやデザイン協力することで、商品がもっと売れるものへと変わっていくと思うのです。そして繋がることで「山間部は今こんなことで困っているよ」という話も聞こえてきて、お互いに思いやることができるのではないのでしょうか。





## ローカルとグローバルのバランスが大切

**松本** 普段の生活についてもお聞かせ下さい。原田さんは子育てお母さんとして、どんな生活をされていますか？

**原田** 子育ては私にとって、切り離せない分野です。一番私の軸となっているのは、やはり家族ですからね。家のことをしっかりやっていないと、私は私でなくなってしまうんです。今は自分の「好きなこと」と世の中に「いいこと」が結びついた活動をしています。もちろんそれがビジネスとして成立することは理想ですけど。そのためにもお母さんである私はまず、家をしっかりと守ることが大前提です。それが私の大事な生き方だと思っていますから、家のことは大事にしたいと思っています。と言いつつも、手を抜いている部分もありますが(笑)。気づけば息子ももう10歳になりましたので、ほとんど手がからなくなっており、どんどん私は外へ出られるようになって、ありがたく感じています。息子と一緒に時間は私の好きな時間、癒されるので、息子・家族との時間を大事に楽しみながら、お仕事も頑張っています！

**松本** お子さんが生まれたことでエシカルの意識に影響はありましたか？

**原田** もちろん大いに影響しています。エシカルの種は私の中にずっとありましたが、芽が出始めたのはやはり子どもを産んでからです。

子どもができたことによって、残すべき地球という存在が目が向いたというか。ほっとけない、私がやらなくて誰がやる、というお母さんの発想がでてきました。今までは人ごとだったことに対して責任感が出てきたというか。それに私は「子どもは社会からの預かりもの」と思っているの、育て上げて世の中にお返しすべきと考えています。エシカルな活動は、社会で子どもを育てるような風潮につながっていると思います。

小学校でも有志のお母さん10人くらいで絵本の読み聞かせの活動をやっているのですが、みんなで無理のないように、楽しく運営しています。今まで自分の子どもに読んできたものを、小学校の子どもたちに同じように読んであげています。私がおしゃべりの仕事をしているから特別などではなくて、みんないっしょのお母さんという立場で読み聞かせに参加する。それぞれのお母さんがそれぞれに違った読み方でいいんです。楽しく読んでいるお母さんたちの姿を見て「私にも何かできるかもしれない」って思ってくれるのが理想ですね。地域での人の輪を広げて、活動を人から人へと継続していくことも大事なことをと思っています。

子どもが生まれてから、地域のことや学校のことに自然と目



が向くようになり、「地域にこんなにボランティアすることがあったんだ」ということに気づきました。ローカルでしっかりと地に足をつけて活動することによって、グローバルが見えてきます。両方のバランスはとても大事だと感じています。子どもたちに世界を見せてあげるチャンスを作ることも大事ですね。それは海外へ行くことで見聞を広めることでありますが、国内にいてもグローバルを感じることでできる方法はいくつもあります。世界中にはいろんな国があって、いろんな言葉・文化・習慣があって、「みんな違う」ことがいかに面白く素晴らしいことで、尊いことなのかということに気づかせてあげられたらと思います。これからの子どもたちは、詰め込まれた知識でものを判断するのではなくて、研ぎ澄まされた感性で柔軟に世界を感じて、地球村の地球人としてエシカルに物事をとらえて、思いやりを持った未来を築いてほしいと思っています。

**松本** 原田さんは名古屋を拠点に活動されていますが、名古屋で活動するメリット、名古屋でしかできないこととはなんなのでしょうか？

**原田** ブログの読者に「名古屋から全然出ないね」と言われたことがあります。「名古屋が海外だね」「ホントに名古屋が好きなんだね」って。私が「原田さとみ」という名前がこの地域のテレビに出させていただいて、皆さんに知っていただいていることにとっても感謝しています。何もできないこんな私を地元の名古屋が支えてくれると、勝手に感じています。器用ではないけれど、運と徳に恵まれてここまで来させていただいたのは、地元の皆様のおかげ、ありがたいことです。だから名古屋には恩があるし、居心地がいい訳なんです。そんな地元名古屋に何かお返ししたい、という思いが今の活動につながっています。なので、この名古屋で私にできることをいろいろ考えているんですよ。





## モットーは「Slow&Flow」。 あくまで自然体を大切に。

**松本** 最後に、今後の活動予定や今注目しているエシカルなものについてお聞かせ下さい。

**原田** 来週から初めてアフリカに行くんです。JICA中部のサポーターとして、ルワンダとエチオピアを訪れます。国際協力活動をしているJICAの取り組みや、青年海外協力隊員の活動の様子など見て、さらにはアフリカからのフェアトレードの現状も視察してきます。そして今後のいろんなイベントや紙面でその様子をお伝えしようと思っています。

そして次に開催するファッションショーでは、もともと私のお店でオリジナルを作ってくれていたデザイナーさんをお願いして、アフリカの生地を使って、お洋服を作って発表します。すごくおしゃれなものに仕上がると思いますよ。アフリカの生地をお洋服にすることで、「ほしい」と思う人が増えれば、アフリカの布がもっと売れることにつながります。それがどんどん広がって現地の生産者の方々の糧となるために、話題になったり、こういうものがあるよって知ってもらったりして、アフリカの布の消費が増え、輸出が増えればいいですね。このデザイナーさんは才能豊かなので、最高におしゃれなものになると期待しています。それを10月17日のCOP10(注4)でのファッションショーで発表するんです。そこでは私の「エシカル・ベネロープ」によるフランスからのエシカル・ファッションと、日本のフェアトレード・ファッション・ブランド「ピープル・ツリー」の秋冬新作、「アフリカの生地をフェアトレード調達して作るお洋服」を三本柱に、さらにエシカル・ジュエリーの白木夏子さんの「HASUNA」の秋冬新作が彩りを添えてくれることとなっています。また11月21日に開催される、2年目のJICA中部「なごや地球ひろば」にて、エシカル&フェアトレード・ファッションショーをプロデュースしています。そこではアフリカの生地を使ったファッションショーを予定しています。

いろいろすべてがチャレンジですよ。すべてをフェアトレードやオーガニックに変えられなくても、たとえばボタンひとつからでも始められれば、それはいいこと! 向かっている方向が、モラルのある、思いやりのあるモノづくりを目指していれば、それがエシカルかなと思っています。それがいつか完璧になればいいんだと思うんです。これも子育てから得た発想なのかもしれないですね。ひとつでもいい、三日坊主でもいい、なにかひとつからでも一歩がスタートできれば、それでいいと思います。

私のモットーは、Slow&Flow=ゆっくり流れること。あくまで自然体で、ゆっくりでいいんだけど、流れを絶やさずしっかりと続けていくことが大切だと思っています。自分の“時の流れ”に敏感に耳を傾けられる自分でいたいですね。

人生には大事な転機が流れてきます。タイミングを逃さず、その大事な声をしっかりと聞き分けて流れに身を任せたら、ここまで心地よく流れてきました。その流れは時には激流で、必死で漕がなければならない時も、何もしないでも思い通りにゆるやかに流れている時もありますが、それが私の人生です。すべてを受け入れ、あせらずじっくりゆったりと、何が起ってても堂々と漂い流れ続けることが、心地いいと感じています。それは他の流れに左右されるものではなく、自分で責任の取れる自分の流れなのです。人生の大事な分岐点は何度も訪れます。そんな時は「これまで」に囚われることなく、自分の直感を信じて「これから」に希望を持って、軽やかステージを移ってきました。辞めること変わることを恐れずに一漕一漕自分で流れて、世界はどんどん広がりました。今はお母さんとして柔らかな強靱で粘り強い“たおやかな”女性となって、これまで育ててくれた地元・社会に愛をお返ししたいと思っています。

地域のことを大切にしたい、それはここに居ることの感謝そのものだから。

### 注1：【エシカル・ファッションショー】

ファッション・クリエイター業界でのフェアトレードを目標に、パリで毎年開催される展示会の名称です。服・靴・バッグ・アクセサリーなど、フェアトレード商品を中心に、人道的であり、環境に配慮した素材・ビオ・オーガニック・リサイクルなどで作った商品をクリエイティブしているブランドの新作展示会です。

### 注2：【ピープルツリー】

(フェアトレードを実施している「フェアトレードカンパニー」のブランド名。フェアトレードカンパニーは、創立者サフィア・ミニが1991年に設立した環境保護と国際協力のNGO「グローバル・ヴィレッジ」のフェアトレード部門として、1995年に誕生。アジア・アフリカ・南米の約15カ国、50団体の生産者パートナーが製造する衣料品やアクセサリー、食品、雑貨などを販売している。

### 注3：【コップなごや水基金】

協賛しているレストラン・カフェで提供される水に対して、寄付を募るプロジェクト。テーブルの上にメッセージカードを設置して、その上に任意の金額を置いてもらう。2010年3月から、原田さんが世話人として主催。

### 注4：【COP10】

生物多様性条約第10回締約国会議の略称。2011年10月11日(月)～29日(金)まで、愛知県名古屋市中で開催される。

